



みやもと
宮本 宏樹
公明党
(40分)



空き家対策は

問

①特定空家等の認定数は。そのうち、行政指導などにより除却した実績は。
②リノベーション補助事業の見直しの詳細とこれまでの実績は。
③除却補助の概要と実績は。

答

①これまで136棟を認定し、このうち、5月末時点で74棟を除却した。
②これまで移住者に限定していたが、今年度から市内の新婚・子育て世帯を対象者に加えた。また、対象工事を専門業者が行う工事に限定していたが、自らが行うDIY工事を加えた。さらに、購入した空き家に限定していたが、相続や賃借も対象に加えた。なお現時点で2件の申請を受けている。
③対象を特定空家等に限定していたが、今年度から特定空家等になる可能性がある危険空き家を加えた。

現時点で、特定空家等については3件の相談を受けており、危険空き家は、7件の事前申請を受けている。



こばやし
小林 聡勇
公明党
(40分)



高齢者の買い物支援は

問

買い物弱者への対応は。

答

1人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、食料品や日用品の買い物に困難を抱える買い物弱者への支援は重要な課題である。現在、地域の支え合いによる外出・買物支援事業、買い物代行などを行う民間事業者を紹介する高齢者生活支援ネットワーク事業、安否確認や栄養改善の必要な1人暮らし高齢者等に食事を届ける配食サービス、おでかけ乗車券の配布やオンデマンド乗り合いタクシーなどにより、高齢者の買い物や外出を支援している。また、地域の通いの場に移動販売車が訪れる事例もあり、地域包括支援センターでは、こうした支援策を地域の高齢者に対して情報提供している。移動販売等の買い物支援に参入しようとする事業者に対しては福山商工会議所やフクビズ等の関係機関と連携し、国の支援制度の活用などをサポートしている。



オンデマンド乗り合いタクシー



さらがいくみこ
皿谷 久美子
公明党
(45分)



高次脳機能障がい

問

周知、啓発や相談窓口の設置は。

答

出前講座や市のホームページを通じて広く周知、啓発を図っている。また、障がい福祉サービス事業所等に対して、研修会や家族会の情報を提供することで、患者や家族の支援につなげる。そのほか県が医療の相談窓口として指定している高次脳機能地域支援センターと、福祉の窓口である基幹相談支援センターのクローバーが連携し退院後の生活支援を継続的に行っている。

JR福山駅前広場のトイレ

問

ネーミングライツ導入のメリットおよび今後の周知などは。

答

専門の清掃サービスにより直接利用者サービスの向上につながる。引き続き、より多くの施設に導入していけるよう、商工会議所などを通じて周知、広報に努める。



JR福山駅前広場トイレ